

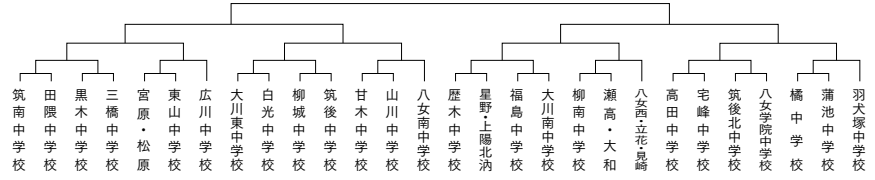
第 22 回矢部川交流中学軟式野球大会開催

ヤンマー建機杯第 22 回矢部川交流中学軟式野球大会が 4 月 8 日(日)・14 日(日)・15 日(日)、福岡県筑後市・八女市・広川町・柳川市・みやま市・大牟田市の各教育委員会の後援とヤンマー建機株式会社社の地域支援活動の特別協賛を頂き本年は 28 チームの参加で開催します。みなさんの応援をお願いします。

開会式は 4 月 8 日(日)8 時 30 分よりヤンマー建機野球場で開催します。



写真は昨年第21回の準優勝校 筑後中学校(筑後市)



矢部川源流・杣の里の四季

⑦⑧

ヤマブキ(山吹)[バラ科]

山吹は実がなるが、八重山吹は実がならない。花期は 4～5 月。八重のヤマブキは雄しべが花弁に変化し、雌しべも退化したもので、実がならない。太田道灌が農家で蓑を借りようとすると、娘が蓑の代わりにヤマブキの枝を差し出しました。しかし道灌は「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」の歌を知らなかったため娘に立腹。後にその無知を恥じた話は有名。

黒木町 松尾 重根



山吹



八重山吹



野鳥ウォッチング ③⑧
ウグイス

ウグイスは、山地の低木林に生息しており留鳥として、山や里で美しい声でさえずります。春告げ鳥とも言われます。

秋冬は平地におり、庭先でも見られることもあります。

矢部村 栗原 浩暢

ハ女茶で健康

第 32 回

新茶の生葉を贈る(一般家庭用)

「新茶のシーズンに何とか茶の生葉を遠く離れた人に贈れないだろうか」という声を良く耳にします。今回は、間近に迫った新茶の時期なので、茶の生葉を摘み、蒸して冷凍保存し、送付する方法を紹介します。茶園の持ち主に「少し茶の生葉をください」と頼みます。

茶の新芽付近の生葉（1 心 2 葉）を 50g ～ 100g 摘採します。摘採に要する時間は 15 分程度です。その茶生葉をラップで完全に包みます。500W ～ 700w の電子レンジでは 1 分間チンすることで蒸すことが出来ます。ラップで完全に包まれていないとうまく蒸すことが出来ません。電子レンジから出したら急いでラップをはがし、急冷却します。ラップに包んだまま暫く時間が経過すると緑色が退色します。

密封し、冷凍された生葉が解けないように氷を添え、クール便で発送します。

冷凍生葉は、常温に戻すとしっかりと、お茶の味・香りもします。蒸して冷凍すれば、料亭でも使って頂ける品質があると考えています。また、蒸さずに、茶の生葉を贈る場合は（かなり困難ですが）、冷やすための氷が生葉に当たると黒く変色します。また、密封しますとギャバロン茶に変化し、新茶の香りがしなくなりますので、蒸して冷凍する方法をお勧めします。

福岡県茶生産組合連合会事務局長 仁田原 寿一



茶の新芽



1 分間チン

ハ女筑後看護専門学校の卵 ⑥

3 月は卒業式のシーズンです。本校では、今年も例年通り第 1 週目の土曜日に准看護科と看護科の合同卒業式が行われました。入学時に 8 2 名いた学生も環境に馴染まなかったり、学力に付いていけなかったりして途中でリタイアして 7 8 名の学生が巣立ちました。

ただ准看護師試験、看護師国家試験の合格発表がまだあっていないので、喜びも半分といったところ です。

准看護科では最近高学歴志向の影響で約 6 割の者が更に看護師（正看）を目指して進学を選びます。看護師の資格がないと病院では不利な点が多く、本校に併設された看護科へ進学をします。近年、准看護科への入学してくる年齢層の変化もあり、比較的年齢が高い者は、准看護師としてそのまま就職する卒業生も 3 ～ 4 割ほどいます。やはり資格があるのは強みで就職には事欠きません。

看護科では看護師の資格が与えられると、殆どは病院へ就職が決まります。就職すると専門職であるために厳しさが求められ、机上の学問ではなかなか通用しないこともあり、戸惑うことも多いようです。

実際には患者さんに寄り添う看護をしたいと思っていても、いざ現場に出ると専門的な知識や技術が要求され、慣れない業務で自分が思い描いていた通りには行かなかったりすることが多く、「習うより慣れろ」とはよく言ったものです。経験の積み重ねが立派な看護師に成長していくのです。

看護師に限らず、医師や介護士などすべての医療職に通じることではあります。

私が卒業生を前にしていつも求めることは、仕事の悩みや愚痴を言える職員間の連帯をもつことです。周囲の人から受ける好意や気づかいに感謝をする気持ちから信頼関係が生まれ、周囲とも「絆」が保てます。絆があることで、周囲とのコミュニケーションがうまく図れ、様々な困難を乗り越える力が生まれてくると思っています。

副学校長 高治 智美



クラッシー文芸

■ひろかわ俳句会
うたかたのしずくと消えし春の雪

春寒し高崎山の猿だんご 御厨とみ子

早春の淡き光や宮の杜 一瀬砂智子

せせらぎの奏でておりし早春賦 原口あつ美

早春の風吹き抜くる道の駅 野中勝美

鳴り止まぬ夜半のサイレン余寒なほ 酒井 司

春風と共に散歩の出来る日日 柴田眞理

梅一輪心和ます山の宿 松延朝美

山笑ふ法螺の音遠く過ぎゆけり 田川義巳

早春の雀軒場に踊りけり 水本辰次

早春の狭庭に立ちて背伸びする 中村良郎

七つ坂越へて早春都井岬 結束節子

■立花町立花俳句会 美座時朗

信念を貫く兜太寒に近く 吉泉守峰

世相斬る俳人の詠や多喜二の忌 西島志乃夫

春泥の轍の続く北陸路 原 宣子

土竜打ち担いで兄の後追ひし 中村テルヨ

初午の赤き幟は正一位 平田清香

蹲いの薄氷溶けて島を呼ぶ 武田行夫

六道湖や雪舞ふ中の蜆搔く 橋本ミユキ

千両の赤き実二つ番鳥 中尾カヲル

雪明り清水寺のきじ車 深町和子

■立花短歌会 絵の中の光あふれるパリジェンヌ意志の力を

目力に見る 樋口愛子

一筋の光を受けて浮き上がるふるさとの海の 野中裕政

二子島かな 野中裕政

凍りつく寒さに耐えて旨み増す冬の野菜が朝 鶴 邦子

陽にひかる 金とメダルを求め若者は栄光の道へつき

進みゆく 真つ白な霜に悴む手にてなすキウイの剪定朝

日を浴びて 原発に代われ未来のエネルギー太陽熱は限り

もあらず こんなのにも声あらげたくなることを沖縄だけ

に背負わせる矛盾 櫻木敦子

冷え込みて凍りつきたる雪景色朝日を浴びて

光りかがやく 松尾ミサキ

玄関に忍び入り来る月明かりふと思いだす

「月光の曲」 鶴 隆治郎

夢のごと光景広がるうれしさよ術後の眼帯は

ずすその時 井上 精